

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：山陽色素株式会社東海工場に
おけるボイラー更新プロジェクト

排出削減事業者名：山陽色素株式会社

排出削減事業共同実施者名：ES カーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	山陽色素株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	山陽色素株式会社 東海工場
住所	静岡県掛川市大淵 1456
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ES カーボンクレジット合同会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

山陽色素株式会社東海工場におけるボイラー更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

本事業は、A 重油焚きボイラーから高効率の LNG 焚きボイラーへ更新する事業である。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

山陽色素株式会社東海工場において、既設の A 重油焚き 2t ボイラー6 台を高効率の LNG 焚き 3t ボイラー4 台に更新することにより二酸化炭素排出量を削減し、また燃料を A 重油からより低炭素の LNG に転換することによってさらに二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2012 年 1 月 5 日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2018年1月1日 ～ 2019年12月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、山陽色素株式会社東海工場において更新される A 重油焼きボイラー及び LNG 焼きボイラーから熱・蒸気の供給を受ける設備である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方 法に変更ある 場合、) 変更理 由
$F_{\text{fuel,PJ}}$	事業実施後の燃料使用 量	kg	2017年度：327,032.2 2018年度：1,138,820.4 2019年度：832,683.0	各ボイラーに設置された流量 計で計測。(Nm3 を kg に変 換する為、換算係数 0.8 を乗 ずる)	変更なし。
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	LNG の単位発熱量	GJ/kg	2017年度：0.0545 2018年度：0.0547 2019年度：0.0547	デフォルト値	変更なし。
ε_{PJ}	事業実施後のボイラー のエネルギー消費効率	%	88.2	カタログ値より算定 (高位発熱量基準)	変更なし。
ε_{BL}	事業実施前のボイラー のエネルギー消費効率	%	90.3	カタログ値より算定 (高位発 熱量基準)	変更なし。
$CF_{\text{fuel,BL}}$	事業実施前の燃料 (A 重 油) の単位発熱量あたり の排出係数	t-CO ₂ /GJ	2017年度 ～ 2019年度：0.0708	デフォルト値	変更なし。
$CF_{\text{fuel,PJ}}$	事業実施後の燃料 (LNG) の単位発熱量 あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2017年度：0.0513 2018年度：0.0510 2019年度：0.0510	デフォルト値	変更なし。
	高位発熱量から低位発 熱量への換算		A 重油：0.950 LNG：0.900	デフォルト値	変更なし。

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	327,032.2	0.0545	0.0513	914.3
2018 年度	1,138,820.4	0.0547	0.0510	3,177.0
2019 年度	832,683.0	0.0547	0.0510	2,322.9
単位	kg	GJ/kg	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				6,414.2

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	17,408.8	-	0.0708	1,232.5
2018 年度	60,844.8	-	0.0708	4,307.8
2019 年度	44,488.5	-	0.0708	3,149.8
単位	GJ	-	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL}				8,690.1

6.3 リークージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	0			0
2018 年度	0			0
2019 年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	8,690.1
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	6,414.2
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	2,275

7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン －実績 (①－②)

8 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年4月1日 ~ 2017年12月31日)		
	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)